



監訳 川崎恵里子
 発行 誠信書房
 A5判 / 426頁
 定価 本体5,200円+税
 発行年月 2018年6月

かわさき えりこ
 川村学園女子大学名誉教授。専門は認知心理学。著訳書はほかに『知識の構造と文章理解』（風間書房）、『文章理解の認知心理学』（分担執筆、誠信書房）、『ことばの実験室』（分担執筆、ブレーン出版）、『言語とこころ』（分担執筆、新曜社）、『認知心理学の新展開』（分担執筆、ナカニシヤ出版）、『認知心理学の視点』（分担執筆、ナカニシヤ出版）など。

心理言語学を語る ことばへの科学的アプローチ

川崎恵里子

本書は、Trevor Harleyによる *Talking the Talk: Language, Psychology and Science*. Second Edition (Routledge, 2017) の全訳である。著者のHarleyはすでに言語心理学の定評あるテキストを執筆しているが、本書はそれよりも親しみやすい内容を目指している。言語の心理学は近年ますます複雑で難解なテーマとなっている。テキストは分厚くなり、その上「まだわからない」という結論に至ることが多い。そこで、本書はより簡潔に、厳選した内容を、できるだけ偏りがないよう議論を整理して紹介

するとの意図で書かれた。

言語の心理学を語るうえで、著者は、副題にもあるように、心理学は科学であることと、コネクショニスト・モデルの重要性を強調する。

このような立場から、本書では言語の心理学における主要な論点、動物のコミュニケーション、子どもの言語獲得と第二言語の学習法、思考と言語、意味、単語認知と失読症、文章理解、発話と失語症など、広範なテーマをカバーしている。読者には肩の力を抜いて、随筆のように読んでいただきたい。



監訳 佐藤寛・金井嘉宏・小堀修
 発行 西村書店
 B5判 / 244頁
 定価 本体4,800円+税
 発行年月 2018年5月

さとう ひろし
 関西学院大学文学部准教授。専門は臨床心理学。著書はほかに『なるほど！心理学観察法』（共著、北大路書房）、『保健と健康の心理学：ポジティブ・ヘルスの実現』（共著、ナカニシヤ出版）、『臨床児童心理学：実証に基づく子ども支援のあり方』（共著、ミネルヴァ書房）、『不登校の認知行動療法：セラピストマニュアル』（共著、岩崎学術出版社）など。

ガードナー臨床スポーツ心理学ハンドブック

佐藤 寛

2020年の東京オリンピックが目前に迫る中、スポーツ分野における心理学の応用が注目されています。日本におけるスポーツ心理学の草創期は1964年の東京オリンピックが契機となったことが知られていますが、2度目の東京オリンピックを迎える現代もまた、スポーツと心理学のかかわりが改めて見直される時代と言えます。

臨床スポーツ心理学は臨床心理学、スポーツ心理学、スポーツ精神医学といった多分野にまたがる学問領域であり、アスレチックパフォーマンスの向上、アスリートの

心理的問題の改善、競技からの引退に伴う支援などを含む幅広い課題に対し、エビデンスに基づく心理学的技法を応用して成果を挙げることを目指します。本書はセルフトークやイメージ技法といった従来型の技法から、マインドフルネスやアクセプタンスといった新しい技法に至るまで、スポーツ分野で活用する方法について体系的に解説された、臨床スポーツ心理学における標準的なテキストの一つです。スポーツと心理学のかかわりに関心を持つ多くの方に手に取っていただけることを願っています。